

平成28年度		自己点検	幼保連携型認定こども園 長坂保育園	実施状況	達成状況
		評価項目		A	a
I 福祉サービスの基本方針と組織					
1	○理念が明文化されている			A	a
コメント	マニュアルで明文化されており、ミーティングや園内研修で確認している。				
2	○理念や基本方針がを職員に周知されている			A	a
コメント	ミーティングなどで周知する取り組みを行っている。理解していない職員の意識を高めていく。				
3	○理念や基本方針が利用者等に周知されている			A	a
コメント	入園の際に説明をしたり、しおりやホームページに記載している。				
4	○施設長自らの役割と責任を職員に対して表明している			A	a
コメント	会議等で職員に伝えている。				
5	○遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている			A	a
コメント	研修などに参加して理解を深め、会議等で伝達している。				
II 組織の運営管理					
6	○職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている			A	a
コメント	必要に応じて勤務の形態を変更したり、園長に相談している。NO残業デーがある。				
7	○職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている			A	b
コメント	表はあるが、全員に渡っていなかったり明示されていない。				
8	○個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている			A	a
コメント	バランスを配慮し、計画表を作り進めている。計画に基づいて研修している。				
9	○定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている			A	a
コメント	研修参加者は復命書を提出し、園内研修等で報告し、共有している。				
10	○実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している			A	a
コメント	マニュアルに明記され、担当者も決められている。				
11	○実習生の育成について積極的な取り組みを行っている			A	a
コメント	実習ノートに所見を書いたり、責任実習や反省会を行い、アドバイスをしている。(今年度 八戸短大2名)				
12	○民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取組を行っている			A	a
コメント	ふれあい広場に民生委員の方を呼んで昔の遊びを教えてもらった。あいさつ運動やごみゼロ運動にも参加している。				
13	○近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼する等の配慮をしている			A	a
コメント	年2回の総合避難訓練では、近田会計事務所職員の避難誘導の協力を得ている。町内会長さんに伝えたり、ホームページにも掲載している。				
14	○中高生などの保育体験を受入れるに当たり、受入れの意義や方針が全職員に理解され、受入れの担当者も決められている			A	a
コメント	マニュアルがあり、担当者も決められている。(今年度根城中学校職場体験3名)				
15	○育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている			A	a
コメント	一時預かりや子育て支援の「ふれあい広場」、園庭やねっこルーム開放をしている。電話でも相談に応じる等、育児支援を行っている。				

	評 価 項 目	NO.2	実施 状況	達成 状況
16	○ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している		A	a
コメント	マニュアルに明記されて、担当者も決まっている。			
17	○認定こども園の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、職員が共有している		A	a
コメント	マニュアルに明記している。変更や情報があった場合は会議などで伝達し、共有している。			
18	○園児の健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている		A	a
コメント	嘱託医がおり、年2回の健診時に相談に応じてもらっている。			
19	○育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている		A	a
コメント	マニュアルに記載され、相談できる体制になっている。			
20	○小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の『機会がある。		A	a
コメント	運動会や発表会、試食会などに言って交流している。小学校の先生と話し合う機会がある。幼保小連携の研修にも参加している。			
Ⅲ 適切なサービスの実施				
21	○利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している		A	a
コメント	マニュアルがあり、会議でも確認をしている。			
22	○利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している		A	a
コメント	年に1度アンケートを取り、改善に向けての取り組みを行った。意見箱を設置している。クラス懇談会でも保護者の要望を聞いている。			
23	○利用者満足の向上にむけた取り組みを行っている		A	a
コメント	必要に応じて改善できるところは出来るように取り組んでいる。 父母の会役員会で、行事の反省を含め、保育についての意見や要望を聞く機会を設けている。			
24	○苦情解決の仕組みが十分に周知され、機能している		A	a
コメント	担当者が決められており、入園の際に伝えたり、玄関に掲示したりしている。			
25	○利用者からの意見等に対して迅速に対応している		A	a
コメント	マニュアルに明記。意見があった場合は園長・園長代理・副園長に報告し、その都度必要に応じて対応している。			
26	○保育の質の向上や改善のための取り組みを職員参加により行っている		A	a
コメント	毎月、職員会議・ワークミーティング・チームごとのミーティング等を設けていて、取り組みを行っている。			
27	○保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている		A	a
コメント	ワークミーティングなどにおいて、月ごとの評価や行事での反省や見直しを行い、不都合な点を話し合い、必要に応じて改善している。また、年度末には1年間を振り返っての自己評価を行っている。			
28	○利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている		A	a
コメント	見守るカルテや児童表に記録し、会議で共有している。			
29	○利用者に関する記録の管理体制が確立している		A	a
コメント	各クラスで管理する場所が決められている。園長が管理しており鍵がかかっている。			
30	○利用者の状況に関する情報を職員間で共有している		A	a
コメント	一人一人の家庭状況、子どもの発達状況、個人目標など、会議やミーティング等で話し合う機会を設け、共有している。			
31	○情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている		A	a
コメント	ホームページやかわら版で伝えたり、帳面や玄関に写真を貼っている。			

	評 価 項 目	NO.3	実施 状況	達成 状況
32	○入所にあたり、利用者等にわかりやすく説明している		A	a
コメント	園長や担任が説明している。見学に来た際は園内を回りながら説明をしている。			
33	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画となっている		A	a
コメント	未満児は個別計画があり、以上児には年3回個人目標を立てている。			
IV子どもの発達援助				
34	○教育・保育計画が、園の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている		A	a
コメント	アンケートやクラス懇談会の意見等を参考にし作成されている。地域の行事も取り入れている。			
35	○指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している		A	a
コメント	毎月、ワークミーティングでチェックを行い、次の月の指導計画に反省を生かしている。			
36	○登所時や在園中の園児の健康管理は、マニュアル等があり園児一人一人の発育・発達状況健康状態に応じて実施している		A	a
コメント	登園時に、一人一人の様子を「健康チェック表」に記入している。また、壁に視診の掲示をし、発育発達状況の記録を取っている。			
37	○健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを教育・保育に反映させている		A	a
コメント	結果を保護者に伝え、気になったことなどは職員間で共有している。			
38	○歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを教育・保育に反映させている		A	a
コメント	連絡帳に結果を貼って保護者に伝えている。以上児は歯磨きをしていない園児への指導が足りない時がある。			
39	○感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している		A	a
コメント	マニュアルがある。看護師から発症状況・病気の内容・予防・配慮事項を会議などで伝えている。保護者へも玄関やホームページで伝えている。			
40	○食事を楽しむことができる工夫をしている		A	b
コメント	セミバイキング方式の給食で、個人差や体調、食欲に応じて量を加減したり、配膳や後片付けも自分でやっている。子どもが落ち着いて食事をする雰囲気作りをしたり、園児が食べ物に興味を持てるように声をかけていく。			
41	○園児の喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に生かしている		A	a
コメント	会議で喫食状況などを伝えている。数や大きさなど個人差への配慮をさらにしていく。			
42	○園児の食生活を充実させるために、家庭と連携している		A	a
	献立表に家庭でのポイントを記載したり、給食試食会が行われている。			
43	○アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている		A	a
コメント	アレルギー検査の結果をもとに、除去食を用意している。(トレーの色・クリップなど)			
44	○子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している		A	a
コメント	園児の興味、発達に応じて整備をしたが、よりこまめに掃除や消毒をしていく。			
45	○生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている		A	a
コメント	取り組んでいるが、季節に合わせた自然物を取り入れたり、音楽や声が大きくなりすぎないように配慮が必要。			
46	○子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている		A	b
コメント	気持ちを受け止めるよう努力をしているが、気持ちに余裕がないときは言葉が強くなってしまいうので、意識していく。			
47	○基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している		A	a
コメント	個人の状況に応じて対応をしている。			

評 価 項 目		NO.4	実施 状況	達成 状況
48	○子どもが自発的に活動できる環境が整備されている		A	a
コメント	職員間で話し合ってコーナーを見直したり、充実させるように工夫しているが、研修などに参加し、子どもにあった環境を整えていく。			
49	○身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。		A	a
コメント	天気の良い日などは散歩に出掛け自然に触れているが、動植物との関わりをもっと持てるようにしていく。年長組はぶさん会やシルエット劇場など地域の祭りに参加し、地域の方と接する機会を取り入れている。			
50	○さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている		A	b
コメント	発表会などの時以外、楽器を楽しめる場が出来ず、もっと改善が必要。			
51	○遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している		A	a
コメント	人間関係が育つように配慮しているが、適切な言葉がけがされていない時がある。			
52	○子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している		A	a
コメント	一人ひとりの人権に十分配慮し、尊重する心を育てようとしている。			
53	○性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している		A	a
コメント	性差、子どもの発想、態度、言葉、服装、遊び方、職業、育児、家事など固定的な対応をしていない。			
54	○乳児保育のための環境が整備され、教育・保育の内容や方法に配慮がみられる		A	a
コメント	配慮に努めている。うつぶせ寝をさせないようにし、睡眠時はSIDSのチェックもつけ、安心安全に努めている。			
55	○長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる		A	a
コメント	配慮をしているが、もっと家庭的な雰囲気を感じられるように努めていく。			
56	○障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる		A	b
コメント	ダウン症2名、自閉症1名。個人の記録を取り、配慮しながら保育を進めている。 個人に合わせて対応しているが、保護者に障がい児に関する適切な情報を与えるのはなかなか難しい。			
V 子育て支援				
57	○一人一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている		A	a
コメント	送迎時に情報交換をしている。前縁時の個別面談は行っていないが、必要に応じて行い、毎年クラス懇談会を行っている。			
58	○家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。		A	a
コメント	児童票・見守るソフト等に記載している。また、帳面や必要に応じて相談記録ノートに記録し、会議等で共有している。			
59	○園児の発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている		A	a
コメント	クラス懇談会、給食試食会、自由保育参加日等があり、理解を得る機会にしている。			
60	○虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている		A	a
コメント	平成28年度、虐待と思われる児童無し。健康観察チェックや着替えの際に体のチェックを行い、何かあれば速やかに園長に情報が届く体制になっている。			
61	○虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について児童相談所などの関係機関照会 通告体制が整っている		A	a
コメント	マニュアルがあり、体制が整っている。			
62	○一時預かりは一人一人の子どもの心身の状態を考慮し通常保育との関連を配慮しながら行っている		A	a
コメント	保護者とのコミュニケーションを十分にとり、一人一人に合わせた保育を行っている。			
VI 安全・事故防止				
63	○調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。		A	a
コメント	水質調査を行っている。毎日水回りの掃除を行っているが、不十分な部分もあるので気を付けて掃除を行っている。			

評 価 項 目		NO.5	実施 状況	達成 状況
64	○食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応については、全職員にも周知されている		A	a
コメント	マニュアルがあり、園内研修でも確認を行った。			
65	○事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている		A	a
コメント	事故記録簿をつけ、月1回 ワークミーティングで話し合いの場を設けている。また、月に1度園内外の安全点検チェックを行って事故防止委員が毎月散歩コースの確認を行い、危険箇所を会議で伝えている。			
66	○事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている		A	a
コメント	マニュアルがあり、職員に配布されている。一人一人が意識をしていく。			
67	○不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。		A	a
コメント	マニュアルがあり、訓練を行っている。			

(改善できる点や改善方法)

0歳： ・環境(室内)、飾りなど季節感をもっと出す工夫が必要だった。

- ・子どもへの接し方に配慮をしていく。
- ・職員同士の連携(休みの職員がいるとき入る職員への声掛け)を今後もしっかりと行う。

1歳： ・自然物を使った環境作りや、室内の装飾・製作にとり入れることなどをもっとすべきだった。

- ・子どもの成長に合わせたコーナー作りや見直しをもっとすべきだった。
- ・畑への関わりが少なかった。2グループに分けて畑を見に行くなど工夫をする。
- ・よりこまめな消毒を心掛ける。
- ・月によってリーダーが変わることもあり、次の月の計画が前月の反省をふまえてたてられないことがあった。
- ・話し合う機会を設ける。(個別の指導案作成の際は行っているの)

2歳児 ・報告・連絡・相談を徹底する。

- ・一人一人が責任感を強く持ち、保育教諭としての意識を高めていく。

3・4・5歳： ・細かいところまで清掃を行い、快適に過ごせるようにする。(テラス・水道など)

- ・言葉遣いなど気持ちに余裕をもって子どもと接するようになる。
- ・不必要に声が大きくなってしまったので、声を大きく出さなくてもいいような注目のさせ方や話し方をしていく。
- ・表現活動があまり自由にできなかったの、コーナーや環境の見直しを多くする。
- ・食材に興味を持てるような働きかけをする。
- ・楽器コーナーを計画したのに実施しなかったの、計画したら実行する。
- ・気持ちに余裕がないとき子どもに対して言葉が強くなってしまっているので、意識をして保育をしていく。

一時・子育て支援： ・一時預かりとクラスの連携を密にする。指定休やふれあい広場があるときは、特に連携を密にする。

- ・早番遅番時のねっころームの使い方について、工夫や連携が必要。
- ・ふれあい広場の日の保育の再確認が必要。

給 食： ・園内研修やクラスごとのミーティングにも積極的に参加し、情報を共有するようにしたい。

- ・上沢、天間の仕事を共有してどちらの仕事もできるようにする。

平成 29 年 2 月 10・13・16日に職員参加で実施した。

平成 29 年 2 月 24 日

記 録： 松田 薫 (副園長)